

国立大学法人小樽商科大学長の業績確認結果について

令和3年1月28日

学長選考会議

国立大学法人小樽商科大学学長選考規程第17条の2に規定する学長の業績確認を実施しましたので、その結果を公表します。

記

1. 対象期間

令和元年度

2. 確認方法等

国立大学法人小樽商科大学学長の業績確認に関する細則に基づき、以下のとおり学長の業績を確認しました。

- <対象> ①監事による業務監査・会計監査の結果
②学長候補者として表明した所信の達成状況
③国立大学法人評価委員会が公表する年度評価

- <確認資料> ①監事監査結果報告書
②学長候補者として表明した所信
③国立大学法人評価委員会からの業務の実績に関する評価結果
④平成31事業年度に係る業務の実績に関する報告書

- <確認方法> ①業績確認資料による書面審査
②学長選考会議による審議
※今年度は、監事の交代があったため、監事へのヒアリングは未実施
※和田前学長は退職しているため、学長へのヒアリングは未実施

3. 確認結果

小樽商科大学は第3期中期目標期間においては、グローバル時代の地域マネジメント拠点としての役割を果たすとともに、北海道経済の発展に寄与する「グローバル人材」を育成することを基本的な目標としており、教育、研究、社会貢献ならびに業務運営における具体的な目標・計画を順調に進めている。

教育面では新たな教育課程「グローバルコース」を令和3年度に開設することを決定したほか、ボランティア活動を単位化できるサービスラーニング科目を新規開講し、また帯広畜産大学、北見工業大学と連携して新入生合宿研修「ルーキーズキャンプ2019」を実施するなど、機能強化が図られるとともに、三大学の経営統合も視野に入れた意欲的な取組が認められる。

伝統的な実績と強みをもつ地域研究課題においては、小樽市と共同で人口減少問題の要因分析と有効な施策に関する研究を実施し、その成果を書籍「人口半減社会と戦う—小樽からの挑戦」（小樽

市人口問題研究会著、白水社)として刊行、さらに報告会を通じて成果の普及に努めている。また全学の組織的な取組によって科学研究費補助金等の外部資金の獲得額が当期中年度比 94%増と有意に増加している。

地域マネジメント拠点、地域人材育成に関する取組としては、観光、地域医療等に関する社会人向け高度人材育成プログラムを提供し、リカレント教育に資するとともに、学部生向けには官公庁や民間企業等の実務家を講師に迎えて「地域学」科目を開設し、地域志向を育み、地域人材の育成に力を注いでいる。

業務運営ではグローバル戦略推進センターに教育の質保証体制を強化するために新たに「教学 IR 室」を設置し、専任教員を配置するとともに、学生が学修するためのアセスメントポリシーを策定したほか、アクティブラーニングの学修効果検証作業が開始された。帯広畜産大学、北見工業大学との三大学経営統合に向けた準備も着実に進められており、令和4年度には「北海道国立大学機構(仮称)」が発足しようとしている。

小樽商科大学の110年の歴史と伝統が新法人のもとへと継承され、そのもとで「グローバル人材の育成」と「地域マネジメント拠点としての役割」がさらに発展することを期待し得る。